**令和５年度　大阪府立支援学校PTA協議会対府懇談会**

１２月１３日(水)大阪府立難波支援学校・大阪府立なにわ高等支援学校講堂に於いて開催されました。当日は、四條畷校からは篠川准校長とPTA会長の坂田が出席させていただきました。昨年度も同じ難波支援学校でしたが、何回来ても、きれいな学校で、講堂も立派でちょっと、羨ましかったです。

今年度は教育庁への要望を9項目、知事部局への要望を3項目にして、要望書を大阪府へ提出させていただきました。要望書全文も添付いたしますが、下記に要望１２項目を記述します。

**〈 １ 教育庁への要望 〉**

1. 学校建設関連①～④
2. 施設設備関連①～④

1. 教育制度関連①～②
2. 教員配置・専門性関連①～④
3. ICT活用関連①～③
4. 安全確保関連①～②
5. 通学バス関連①
6. 医療的ケア関連①～②
7. 通学区域割①

**〈 2 知事部局（福祉部、商工労働部、都市整備部等）への要望 〉**

1. 卒業後の進路、社会参加等関連①～⑦
2. 健康・安全・地域福祉関連①～③
3. 福祉医療制度関連①～②

対府懇談会午前中は、知事部局への要望、お昼休憩を挟んで、午後からは教育庁への要望を各障がい種別代表のPTA会長が、府支Pからの要望を直接担当者に発言させていただきました。

四條畷校の教育庁への要望である、『四條畷校の本校化』は要望書1の １．学校建設関連の④に書かれていますが、今年度は、口頭での当日の発言はありませんでした。印象としては、本校化が着手されるまでにはまだ数年はかかりそうです。検討はされていると感じます。そして、四條畷校の知事部局への要望である『卒業後のサポート体制の充実』は、要望書 2 の　１．卒業後の進路、社会参加関連の⑦に書かれています。この要望は、西浦支援学校からも同じ要望が出されていたので、西浦支援学校のPTA会長が、口頭発言していただきました。知事部局の担当者からの回答は、府主導ではなくて市町村にゆだねている印象を受けました。すぐに実現には至らない、難しさも感じますが、今後も継続して要望していく必要があると思います。

対府懇談会に出席させていただいて感じることは、なかなかすぐに要望が叶うことはできなくても、大阪府の担当者の方にお越しいただいて、直接お話しできる機会があることは、とても有意義で貴重なことだと思います。私たち支援学校に通う子どもたちの保護者は、子どもたちの学校生活が安全・安心に送れることはもちろんのこと、より良い教育環境、設備で楽しく学べることを願っています。直接要望を述べてご回答いただけるこの対府懇談会はこれからも子どもたちのために継続していっていただきたいです。教育庁の担当者の方は、元支援学校で、教員をされていたという人も多く、子どもたちへの想いは温かいものを感じます。

令和5年4月に「大阪府医療的ケア児支援センター」を設置できたのも、令和6年４月より、出来島支援学校が新しく開校することも、長年、懇談会を重ねてきたことの成果だと思います。

印象に残ったやりとりの一つに平野支援学校の会長の発言です。肢体不自由校では、学校生活において、子どもたちの移乗は、ほぼ全て先生方による人的介助のみで成立していて、多くの先生が、腰痛があったり、潜在的な腰痛リスクを抱えておられるそうです。そのために、全ての肢体不自由校にリフトやアシストスーツなどの移乗用具の配置を要望されました。

平野支援学校は今年40周年を迎え、その周年行事の一環として、PTAより3台のリフトを寄贈されて、先日の修学旅行では、先生方が積極的に活用してくれて、スリングに包まれた子どもたちは、包み込まれる安心感から、持ち上げられるという緊張感から解放されて心理的にリラックスすることができる。と実際の様子を聞いた大阪府の担当者の方は、とても高い関心を寄せておられ、子どもたちがリラックスできたことに喜びを感じておられる印象を受けました。前向きにリフトの活用に向けて検証を行っていくと真剣に応答されていて、大阪府の担当者の方も、すぐに取り組めて、子どもたちの役に立つような要望なら、喜んで取り組んでくれるんだなと感じました。私たちも、大阪府の担当者の方も、子どもたちのためになりたいという気持ちは一緒だと感じた瞬間でした。

PTA会長